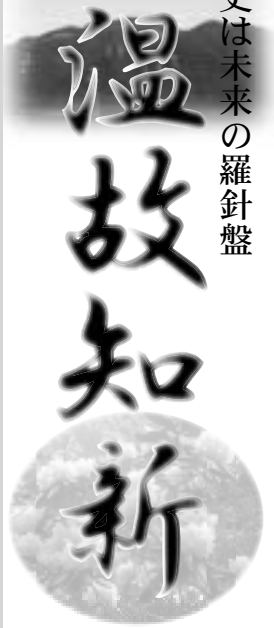


歴史は未来の羅針盤



『近江日野の歴史』第一巻「自然・古代編」、および第五巻「文化財編」は、各公民館や教育委員会において一冊四、〇〇〇円（税込み）で販売中です。ぜひお買い求めください。また、第六巻「民俗編」の予約も受け付け中です。

町史編さん室では、町史の刊行に向けて、日野の歴史や文化に関する様々な調査を行っています。今回は、町内各所に残る中世城郭の調査を通じて得られた成果について紹介します。

### 日野の中世城郭

日野町には、どのくらいの中世城郭があるのでしょうか。昭和六十一（一九八六）年の滋賀県教育委員会の調査によれば、町内の中世城郭および居館として、伝承のみで詳細が不明なものも含め、三五カ所が紹介されています。中世の城郭は、安土桃山〜江戸時代に作られた石垣や天守閣を配した堅牢な構築物ではなく、自然地形を改変して設けられた土塁や空堀などによって特徴付けられるものです。それゆえ、後世に開発などの手が入ることによってその遺構が分からなくなってしまう場合も多

くみられます。日野町内に分布する、鎌掛城・鳥居平城・長寸城・佐久良城などは、城郭の遺構の残存状態も比較的良好で、往時の様子うかがい知ることのできる貴重な中世城郭といえるでしょう。

また、音羽城・鎌掛城・中野城は蒲生氏、佐久良城は小倉氏の居城であり、戦国時代の武士の動向を考察する材料としてもたいへん重要な遺構といえます。

今回は、小倉氏の佐久良城を中心に日野の中世城郭の特徴をみてみましょう。

### 小倉氏と佐久良城

小倉氏はもともと愛知郡に本拠をもっていた武士の一族ですが、室町時代にはその一部が桜谷にも勢力を伸ばし、佐久良を本拠としていました。とくに小倉実澄は、一五世紀後半に起こった応仁・文明の乱を避けて京都から近江国に

逃れてきた禅僧横川景三らを庇護したことで知られる人物です。佐久良城跡は、小倉氏の菩提寺である仲明寺（佐久良）から西へ約三〇〇メートルほど進んだ小高い丘に位置しています。

この城の特色は、まず城の構築に際し大掛かりな土木工事を行っていることです。たとえば城の中心となる部分は、東西約五五メー



▲中之郷から佐久良城方向を望む



▲佐久良城の石垣

トル、南北約四五メートルの広さをもち、その周囲には、高さ約四メートルの土塁が巡らされています。また、大規模な空堀や土塁などを部分的に補強する石垣などの存在も注目されます。

このような築城技術は一般に「伊賀・甲賀型」といわれ、伊賀国や甲賀郡の城郭で用いられたものが取り入れられています。このことは、伊賀や甲賀と日野との地域間の結びつきを考えると、重要な手がかりを与えるものといえるでしょう。

これらの調査結果は、第四回配本の「中世編」で詳しく取り上げる予定です。